

http://www.e-meisei.net

# No. 75

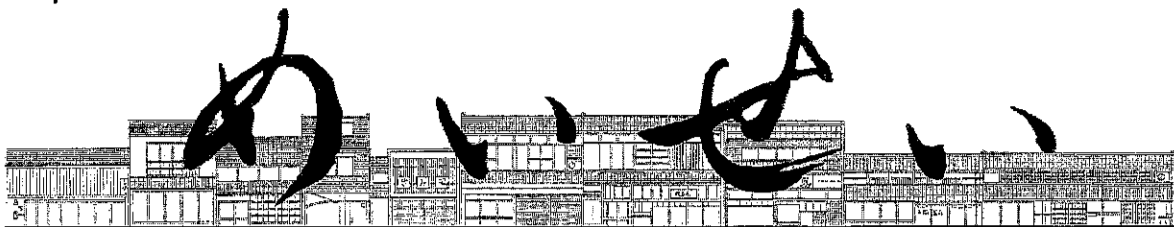
■発行／(公社)愛知建築士会名古屋西支部

■編集／広報渉外委員会

名古屋西支会西一丁目20番49号クラ設計内

TEL(052)908-0939 FAX(052)908-0836

■印刷所／株式会社 ウエルオン TEL(052)732-2227



## 屋根神様のある長屋の調査と保存活用提案

平手 公基

**当** 支部有志が企画し、公益社団法人 愛知建築士会として公益社団法人 日本建築士会連合会が実施する、平成27年度「まちづくりに係る建築士会等と自治体との連携強化のための方策検討事業」の助成金申請をした結果、7月28日付けで「助成金交付決定書」が発行されました。

私たちが取り組む「屋根神様のある長屋」は名古屋城と名古屋の間に位置する「名古屋西四間道町並み保存地区」内にあります。この地区の代表的な建物に「美濃路」に面し、「幕府御用達商家」として米問屋を営み、堀川の水運を活用して栄えた、愛知県指定文化財建造物「伊藤家主屋」があります。

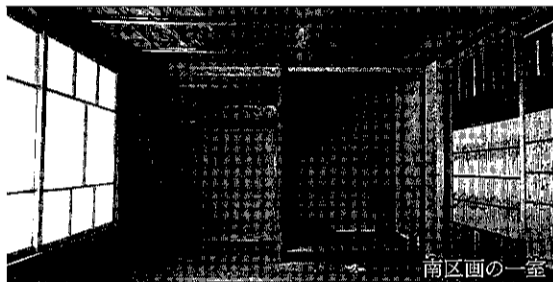
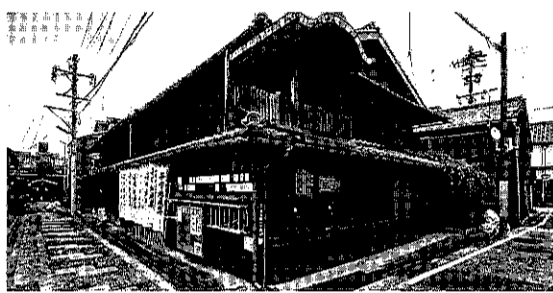
「屋根神様のある長屋」はかつて伊藤家の使用人の「長屋」として建てられ、その後、貸家として使用され現在にいたっています。「屋根神様」は幕末・明治・大正に創祀されたものが多く、名古屋市内に1000社以上ありました。もっとも多い西区で現存するものは50数社です。今回調査対象の屋根神様の祭神は熱田神宮(武運長久)、津島神社(防疫)、秋葉社(防火)の3柱で、お社は唐破風造りとなっています。氏は組、町、切、といった単位でお守りしていましたが、この周辺も人が減り、新住民は関心がないとのことで、入り込みの組と周辺14軒でお守りしている状況です。

屋根神様文化フォーラム代表 浅野順子氏によると創祀は大正6年とのことで現地調査の結果、棟札により現在のお社は昭和5年9月の竣工であることがわかりました。創建は不明ですが、棟札により明治23年改築の旨を確認。町内会長さんの協力をいただき聞き取り調査を行い、お座敷芸のおけいこの場として使用されていた時期もあったことがわかりました。

建物は北面、西面、南面を道路に接し、1階は妻側4間、桁行11間。南の区画は妻側4間、桁行4間、他の3区画は妻側4間、桁行14尺。2階は西面、南面を3尺セットバツ

クした木造2階建て。大屋根は椽瓦、土居葺きで北面を切妻、南面を入母屋としています。下屋は寄棟。建物は全4戸のうち、2戸が使用されています。空き家の区画は雨漏りの為、梁材の腐朽が激しい状況です。

地域の文化、信仰と生活、コミュニティーの有り様を伝えるこの「長屋」を何とか修理し、保存活用して後世に遺す道を目下検討中です。



南区画の一室



## 五条橋ポケットパーク

臼井 鏡造

五条橋親水空間「堀川広場整備工事」は工事完成前の10月27日(火)、名古屋市緑政土木局河川部河川計画課により「五条橋親水広場の見学会」が開催されました。西区長はじめ、那古野学区と幅下学区の区政協力委員長、町内会長、四間道・那古野界隈まちづくり協議会会員、まちづくり団体関係者、行政担当者も含めて、30数名が集まり、さらに地元住民の方も多くが立ち寄られ、新しくできた公園を楽しんで行かれました。

工事費の上昇により、当初予算では受注者がなく、設計変更で計画が縮小されました。白壁塀は短くなり途中で終わってしまいました。案内板や腰掛などの施設も減りましたが、船着き場は設置され、私達、四間道・那古野界隈まちづくり協議会が原稿作成した五条橋史跡説明板も白壁に取り付けられました。

説明板には清須越により五条橋がここに移されたこと、堀川西岸の道が美濃路であること、美濃路に沿って清須越商家が並び、その西側に四間道ができたことなどが記されています。

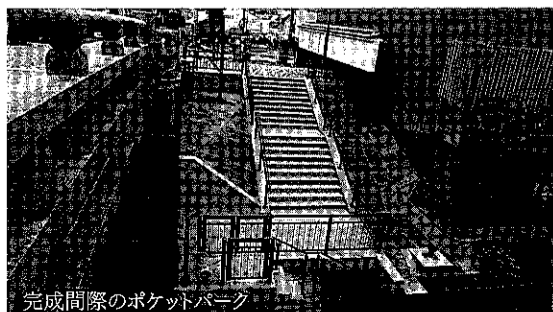
このポケットパークは、2007年5月、美濃路まちづくり推進協議会が清須越400年(2010年)記念事業として名古屋西に提案したものです。その後作成した趣意書には「清須越400年」を記念した史跡公園として、末永く市民の憩いの場所になることを願っていました。趣意書は地域の方々や、まちづくり団体の協賛を得、2009年8月、

西区長提案として堀川総合整備室へ提出されました。2013年度、実施設計へと進み、入札不調など工事契約まで難航しましたが、ようやく今日を迎えました。

まちづくりのために蒔いた小さな種が大きな実を結んでくれました。12月1日オープン予定。見学会当日は、既に、もやい杭が2ヶ所設置され、船の着岸を待っていました。白壁塀は腰板張りが間に合わず、下地状態のままです。完成写真をご覧ください。



10月27日見学会



完成間際のポケットパーク

## 横浜マンションの杭長さ不足等の建築を巡る状況について

江口 眞樹

横浜のマンションの傾きが問題になり、杭先端が支持層に達していないことが明らかとなりました。その後の経過については、連日のTVニュースや新聞で皆様よく御存じのとおりです。10/29時点では、問題の杭打ち施工業者がかかわった全国3040件の調査の途中経過ですが、北海道などで新たに杭打ちデータの偽造が報告されています。

なぜこういう事態が起こったのか、識者がいろいろ意見を述べていますが、そういった意見をふまえながら私なりの考えを述べたいと思います。

耐震偽装問題で確認申請制度が大きく変わり、特に構造設計においては大きなレベルアップがなされました。一方、現場の施工管理についてはそれほど大きなメスが入ったわけでもなく、いずれは今回のような問題がおこることも十分予想されることでした。

杭が支持層に達したかどうかは杭打機のオペレーターならわかっていたのではないのでしょうか。あえて未達を無視して工事を終わらせてしまったことは、現場管理者ともどもとても許せるものではありませんが、なぜそうしたのかは、やはり工期の問題があったのかもしれない。杭メーカーは杭のストックを持たないの、杭の変更には1か月程度の期間を要することも一因でしょう。これを改めて、一定量のストックを持たせるようにできないのでしょうか。杭打ち施工データも自動で電子記録が残るようにできないでしょうか。

設計者側の問題としては、ボーリング調査箇所を多くし支持層をより詳細に把握することが肝要で、特に山地など傾斜地は注意すべきでしょう。傾斜地の場合は杭長さの変更に対応できるような工法も考えておかなければなりません。

いずれにしても施工者及び設計者が一体となって今まで以上に注意を払うことが必要でしょう。

私は調停委員として建築訴訟に関わっています。今回のような杭耐力に関する事例もありますが、その他実に様々な瑕疵に遭遇します。鉄骨の溶接の不具合、部材断面の過小、使用材料の取り違え、擁壁の傾斜、コンクリートの打設不良、切土盛土にまたがった建物の不同沈下など。またコンクリートのひび割れもよく問題になります。

ひび割れはコンクリートの宿命でもあります。今回の事件及び報道で世の中がより過敏になり、施工者及び設計者に対応を迫られる可能性があります。我々もひび割れに対し、構造的な問題(瑕疵)なのか否かを判断できるだけの知識を深めなければなりません。一般的にはひび割れ幅が0.3mmを超える場合は構造的瑕疵の疑いがあるとされています。

今回の旭化成建材の対応(同社の全施工物件についての杭施工データ調査)は、私にとっては過敏過ぎると思わせるものでした。まずは全建物を調査し、不同沈下が起きているかを調査したうえで、不具合建物の詳細調査を行うことでよかったですのではないのでしょうか。

昨今の報道姿勢で、へたをすると会社の存続にもかかわることが懸念されるのでこのような対応をしたのかもかもしれませんが、現実的な対応としては、問題建物のみの解体、さらには可能な限り当該杭の部分を含むスパンのみを解体撤去して直す方法もあると思います。

全居住者に住居移転を迫るのも、はたして良い方法といえるのでしょうか。

# 美濃路ウォッチング

白井 鏡造

## ○美濃路まちづくり推進協議会

清須市では国の「まち・ひと・しごと創生法」に基づく「清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略(仮称)」を策定するため、「清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」を立ち上げた。

総合戦略策定のため、重点検討分野

①観光振興、②アクティブシニアの積極的な社会参加と健康づくり、③若者目線からの定住・結婚・子育て支援の3分野ごとに戦略提言会議を設置するとし、私達の会、美濃路まちづくり推進協議会は戦略提言会議(観光振興)に関係者として意見を述べることとなった。

今年度3回の会議でまとめる予定で、既に2回会議がもたれ、第1回では「施策展開の方向性」、第2回は「施策の絞り込み」が行われ、私達、美濃路の立場から発言してきた。11月の第3回ではこれまでの成果を踏まえ、施策を決定する予定。私達が積み重ねてきたまちづくりの理念が少しでも反映されることを期待しています。

## ○清須越400年ネットワーク

・京町通り「茶屋町の伊藤屋」(のちの松坂屋)史跡説明板設置のため、10月9日、株式会社 大丸松坂屋百貨店本社総務部を訪問。社史担当者と説明板原稿について議論し意見をいただいた。10月16日、設置予定場所の京町通、アイリス愛知にある「愛知県

自治研修所」を訪問。プレゼン書類を提出し説明。設置に向けて「公共性」を求められ、いくつかの課題が示された。ここでめげるわけにはいきません。前進あるのみです。

・「中山道鶴沼宿」見学会を10月3日(土)開催。8名参加。ガイドには当会会員で名古屋城と東区文化の道のガイドボランティア、NPO法人撞木倶楽部理事長伊藤喜雄氏。当日は、他の団体が大規模な「まち歩き」を実施。参加者で賑わう駅前から外れ、村国真墨田神社・中山道鶴沼宿道標を過ぎ、尾州領傍示石と高札場のあたりからまち歩きの参加者が溢れる宿場へ入る。脇本陣・大垣城門・町屋館や普段、一般見学は行わない菊川醸造も試飲会や屋上で行列ができていた。古い町家を改装した釜飯屋で昼食。二宮神社・町屋の家並みを経て名鉄鶴沼宿駅から新鶴沼へ戻る。犬山橋から、鶴沼城跡の城山、国宝犬山城、木曾川を挟み、信長が東美濃攻めのとき本陣として城を築いた伊木山を眺め、見学会を終えた。



犬山城と伊木山

## ○四間道・那古野界隈まちづくり協議会

・日本建築士会連合会助成事業「屋根神様のある長屋の調査と保存活用の提案」は1面に掲載。  
・愛知地域貢献活動センター助成事業「おむすびころりん大作戦」は次回掲載予定。

## 第2回 研修見学会 信州諏訪

水野 志保

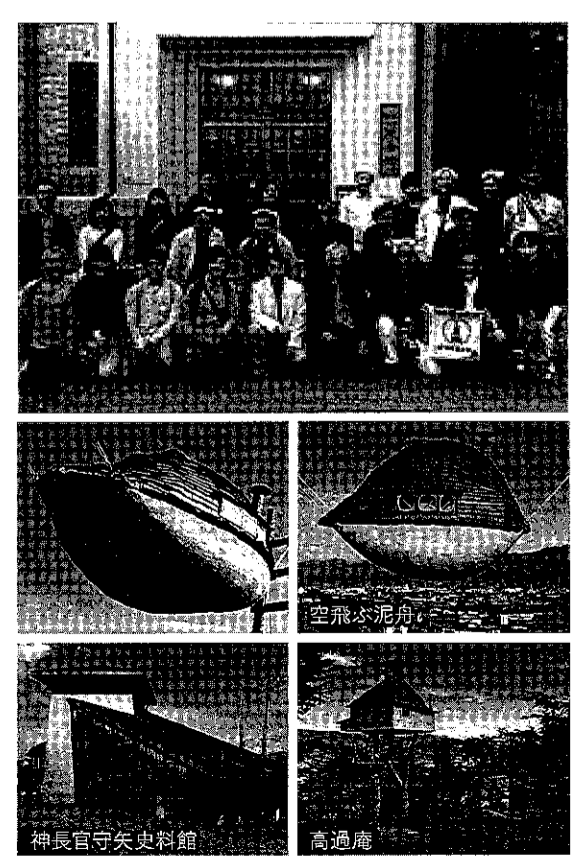
11月7日(土)清々しい秋晴れのもと『藤森照信建築群と「シルクエンペラー」が残した「産業遺産」に会いに行く』として信州へと向かいました。

今回の案内に「入浴代は費用に含む。」とあり、仕事を離れ紅葉・建物見学・温泉でリフレッシュできる事に朝早い集合時間を苦にせず楽しみに参加しました。

高速道路の道中、山の木々は「もこもこ」と色とりどりの美しい紅葉で目を楽ませてくれました。岐阜県は山が近い感じで木々も近く、目の森林浴だなぁと思いながら恵那山トンネルを抜け長野県になると山が離れて遠景で紅葉が楽しめ、紅葉シーズンを満喫。

午前中に訪れたのは、神長官守矢史料館・空飛ぶ泥舟・高過庵。縄文建築と藤森さん自らが呼ぶ建物群はともて大らかな形状や質感。屋根から木が突き出している神長官守矢史料館は「軒が寂しいので四本柱を建てようとして、偶然鉛筆が走って軒を突き抜けた。こうして正面の柱ができた。」と本当に?と思うような藤森氏による解説を手に見学。諏訪上社の御頭祭の展示品に少しビビりながら、古文書や考古資料を拝見しました。土壁のようなモルタルの仕上げで床・壁・天井が塗られた洞穴の印象でした。畔道を歩いて行くと空飛ぶ泥舟・高過庵があります。空飛ぶ泥舟、私は茅野市美術館にあった時に中に入りました。小さいように見える外観ですが、案内内部は広く中央にテーブル、両側に造り付ベンチがあり暖炉があり、壁・天井は板貼り仕上げ(床もだったかな?)でした。高過庵は2本の栗の木にちょこんと乗っているような形状。案内板もないので思い思いに写真に撮ったり、ポツリと感想を言って談笑といったのんびりとした見学でした。

その後、諏訪湖ホテルに移動し昼食のあと片倉館をガイド付で見学。昭和3年竣工、森山松之助設計の文化福祉施設で洋風の外観と200畳の大広間等の和風な空間の対比が見どころでした。ガイドができない千人風呂と呼ばれる浴室は各々が入って、ステンドグラスや彫刻、大理石造りの浴槽で底に那智黒石が敷き詰められた深さ1.1mの天然温泉を楽しみました。「売らない・貸さない・壊さない」の3原則を家訓に、世界遺産(富岡製糸場)を守り続けたシルクエンペラー片倉ゆかりの施設をゆっくり巡る旅も素敵だなぁと思う充実した見学会でした。



空飛ぶ泥舟、神長官守矢史料館、高過庵

## 第1回 研修見学会 醒井宿

本 良一

この度、名古屋西支部会員である日置さんのお誘いを受け参加させて頂きました、本(もと)良一と申します。日置さんとは、同じ会社に所属しております。私の主な仕事は建設の現場管理を担当しており、日頃このような散策に足を運ぶこともなく、良いきっかけを頂き感謝しております。

今回の滋賀県坂田郡米原町醒井原町醒井の醒井宿の研修について。醒井宿は、中山道として東京(日本橋)~京都(三条大橋)までの69番ある宿場町の中、61番目にあたります。宿場街道全長876mの中には、市指定文化財の醒井宿場問屋があり、1700年初頭築とされ構造は本造平屋建てで、各地の間屋場の中でも完全な形で残っているのは全国的に珍しいとの事です。又、1915年に建設され、1973年まで醒井郵便局として使用されていた木造2階建ての擬洋風建築は、ウィリアム・メレル・ヴォーリズが設計に関わったとされています。平成10年に国の登録有形文化財になり、再利用を目的として修理が行われ、平成12年から資料館として利用されています。

9月12日(土)、名古屋からJRの快速列車に乗って1時間ほどの醒井水の宿駅へ。都会の雑踏を離れ、一昔前にタイムスリップしたような風景と秋晴れの天気の中、参加者16名の街道散策となりました。実際に歩いて見て中山道に沿って流れる地蔵川は、居醒の清水などが源流となっており、川の中には梅花藻(シーズンは6月~9月)が生息し、水中の藻の中から小さな白い花が可愛く顔を出していて、私たちの足も自然と止まり、何度もカメラのシャッターを切っていました。

地蔵川には幾つも水汲み場となる階段が古くから設置されており、段数も少なく水面までの距離が近いことから、生活の一部として今でも利用されています。

旧醒井宿場問屋は、当時の様式として建築部材の仕上げが手斧仕上げだったり、通し柱が多く見られたり部分的に修復がされた箇所は、わざと古く見せるのではなくそれと分かるような見せ方をしている面白かったです。土間、踏み台、板の間などには、多くの傷跡があり当時のにぎわいを伝えてくれています。

さらに歩く一般的な家でも数十軒は、塀として生垣

が用いられ、いまだにお手入れをしながらの暮らしをされています。古い木造建築と生垣の緑、地蔵川の流れと梅花藻の花の白、藻の濃い緑との一体感は、自然(環境)と建物を融合させています。この技術は、日本人が持つ感性の素晴らしさだと思います。

ヤマキ醤油屋の建物は、外部の窓が木製のタテ格子で装飾が施され、外部の壁が白壁(白漆喰塗り)で施工され、屋根や庇が雪の重みに耐えられるように、下地材(野地板や垂木)がアーチを描く様に母屋レベルが、工夫されるなど匠の技が多く見られ驚きました。

醒井郵便局の建物は、一見RC造で洋館に見えます。1階は洋風で天井、壁は、石灰モルタルで仕上げてありますが折上天井や引き違い戸、2階は、和風で竿縁天井や床の間がありながらモダンな出窓を配置し、ヴォーリズの日本建築への興味と理解を感じる作品になっていました。

お昼は、小さな蕎麦屋さんで、ざる蕎麦と鱈寿司と地酒をおいしく頂き、この地を後にしました。

また次回、醒井を訪れる機会があれば、梅花藻の花が咲き乱れる梅雨明け頃に訪れたいと思いました。



旧醒井郵便局

# 母袋烏帽子岳登山

白井 録造



11月3日(休)少し曇りがちな空模様のなか、東海北陸自動車道・長良川SAと瓢ヶ岳PAにて合流し、ぎふ大和ICから156号へ古今伝授の里フィールドミュージアムへ母袋温泉スキー場へ着。標高800Mのこのあたりはすっかり紅葉し、青空も広がり、今日の山旅を期待させてくれるようです。

前日、2名が急用で不参加となり、2年ぶりの登山というK夫人を含め、参加者は4名。9:00駐車場を出発。林道や登山道で栗拾いをしながらの道草登山。よく間伐された桧林をすぎ、紅葉の「白樺の道」～「ブナの道」を通り抜け、11:25頂上着。標高1341mの頂上からは御嶽山が真東にドカンと座り、その頂上は雲の中でしたが、稜線が南に下り、白草山～小秀山に登る鞍部越しに中央アルプスの木曾駒ヶ岳・宝剣岳・三ノ沢岳が雪を纏って輝いていました。西側には油坂峠を越え、九頭竜湖へ向かう中部縦貫道～毘沙門岳～大日岳～白山が一望。白山は名前通り白くなっていました。

12:20頂上発。同じコースを下り、紅葉を愛で、再び栗拾い、ナメコを収穫。2:10駐車場着。往復とも出会う人もなく、私達だけの山旅でした。帰りは156号を少し北へ行った道の駅「古今伝授の里」へ立ち寄り、解散しました。



頂上にて



ナメコ

# 第45回 建築総合展と「建築士デー」懇親会

高倉 康人



今年も10月1～3日の3日間に亘り、吹上ホールに於いて建築総合展が開催されました。中部地区唯一の建築関連専門展示会として70を超えるブースが並びました。昨今はインターネットの普及により会場に足を運ばなくても簡単に資料が取寄せられるようになり、毎年来場者の減少が懸念されていますが、カタログを見ているだけでは違い、一同に会した様々な会社の担当者から直接熱意のこもった話を聞ける数少ない機会です。会場を見渡すと年配の参加者が多いのですが、是非若いインターネット世代の方たちにこそ足を運んで頂きたい催しです。会場内及び会議室では建築に関する様々なセミナーが催され、こちらも盛況でした。2日目の10月2日には18時より同ホール内の展望ホールで「建築士デー」懇親会が開催されました。年に1回、愛知県中の建築士会会員が一同に会する唯一の場です。会長の挨拶に始まり来賓等紹介の後に、今年は10年以上継続事業を行っている支部を対称に支部事業褒章の授与があり、名古屋西支部は、会報「めいせい」の発行でみごと褒章を頂きました。名古屋西支部は懇親会に20名が参加し、皆で受章を祝いました。会報「めいせい」は建築展の会場でも平成3年発行の第1号からの歩みが展示され注目を集めていました。懇親会会場では褒章授賞式の後に乾杯が行われ、小宴にて支部を超えた懇親会が行われました。恒例の抽選会では支部より5名の当選者が出るなど例年以上に盛り上がりました。

# 学生コラム

名古屋デザイナー学院 インテリアデザイン学科1年 高須賀 健



住環境デザインの授業でインテリアデザインを学んでいます。

決められた課題敷地に自分のイメージした空間を絵や形にして表現しています。初めは見た目の美しさばかり気にして、実際にその空間を使う時のことは後まわしにしていました。課題を重ねていくうちに、デザインは、実際にそれを使用した時のこと、使用する人のことを考えなければならないと学びました。現在、6人向けシェアスペースの提案作りを行っています。実際に課題敷地を見学しに行き、街の見学もしました。街の雰囲気や環境を確認し、その土地ならではの提案に活用できないかを考えました。土地の構成や住人設定から、階段によって空間をつなげる、扉のない一体感のある連続した空間をイメージし、どこにいても大きな声を出せば届き、尚且つ、階段を利用したプライベート空間の確保ができる手法を考察しました。イメージを表現するためにスケッチを描き、模型を作っていますが、一体感を出すにはどこに何を配置したらいいのか、プライバシーを確保できているのか、階段ばかりが空間を埋めてムダになっていないだろうか…等、実際に使用した時のこと、使用するのことを考えると不安はどんどん出てきます。それでも考察を重ね、自分のイメージした空間により近付けられるようにします。そして、この課題で学んだことを今後の空間作りに役立て、より良い提案をできるインテリアデザイナーを目指していきます。

# 北名古屋市耐震相談会 牛田 清文

10月21日に市庁舎にて開催され、相談員として耐震対策のアドバイスを行いました。相談者は耐震診断を受けられた方々で四件の相談がありました。支部会員の志賀勝則さんと二人で対応に当たり、耐震診断報告書の内容の見方と耐震改修の方法についてわかりやすく説明をしました。

また、木造住宅の耐震化における、耐震改修工事の助成と耐震シェルター、防災ベッドの助成制度の説明を行い、補助金受取りまでの主な手続きを解説し相談会を終わりました。



# 清須市耐震相談会 岡田 巖

10月9日に木造住宅の耐震診断及び耐震改修を促進するため開催された。県は平成32年度までに耐震化率95%を目標にしている。耐震診断を受けた人にとって結果報告書だけでは費用面も含め不安が多く、改修への決断に困惑しています。相談会を通じ具体的な改修位置、仕様等を明示して、耐震改修へ踏み切るきっかけ作りとします。

今回の相談者すべてが「旧WEE」での診断でした。本来「改訂版WEE2012」に入力し直し改修プランを作成すべきでしたが、時間配分上問題有りです。事前のソフト入力作業時間の確保が課題ですが、相談会として無事終える事が出来ました。



# 「みずとびあ観月の夕べ」に参加して

水野 志保

中秋の9月26日(土)、みずとびあ庄内広場(清須市庄内川水防センター)にて地域の市民イベント、「みずとびあ観月の夕べ」が開催されました。

主催は「みずとびあ観月の夕べ」実行委員会。名古屋西支部青年委員会は「美濃路まちづくり推進協議会」から事業委託を受けて参加しました。

このイベントは、かつてこの界隈が七勝八景と言われるほどの景勝地として知られ、中でも秋の月が多くの人々に愛されていたという庄内川の歴史や文化背景を後世に伝え、活気ある川づくりを目的として開催されるものです。

会場内に設けられたステージでは、ポップスバンドの演奏や子どもダンス、歌謡ショーなど、さまざまな芸能等が披露されました。また、観月屋台としてやきそば、串カツ、みたらし、焼きとうもろこし、フライドポテト、飲料なども販売していました。

名古屋西支部青年委員会は会員10名のご協力をいただき、輪投げ屋さんを出店しました。今年は景品を

テントのトラス梁より隙間なく吊り下げて賑やかさを演出しました。4時30分の開店から8時30分の閉店までひっきりなしの大行列、大盛況で400人以上の子供たちに楽しんでもらえました。同伴した保護者の方には西支部会報「めいせい」を配布しました。

秋は夕暮れ、日暮れと共に表情を変える空の下、輪投げに一喜一憂する子ども達と共にこちらもあつという間の楽しいひとときを過ごす事ができ、地域市民の方々、他団体の方々と交流する良い機会となりました。来年も楽しみにしています。

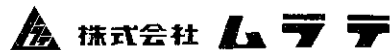


# 住宅リフォーム・リニューアル工事、耐震補強工事

集合住宅・ビル・マンション・一般住宅・倉庫・工場・営業店舗

豊かな環境を創造する

テレビ愛知 毎週土曜 PM7:00~7:54



「探Q!Aトリップ」CM提供中

URL <http://www.murate.com/>

〒453-0861 名古屋市中村区岩塚本通1-51 TEL052-411-8111 FAX052-413-1036

津島(営) TEL 0567-31-0780 名岐(営) TEL052-400-1291

Total Media Support

# WELL ON

株式会社 ウェルオン

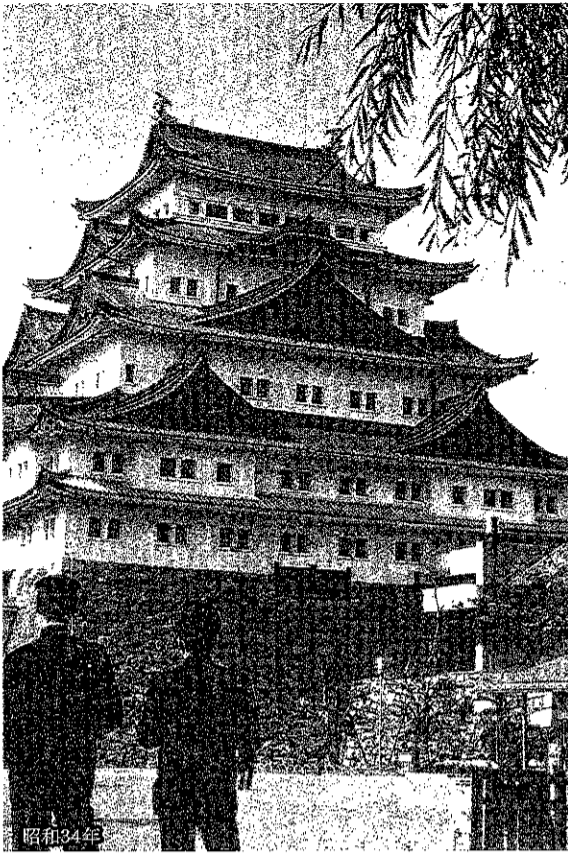
〒460-0007 名古屋市中区新栄三丁目21番31号

TEL 052-732-2227 FAX 052-733-3178

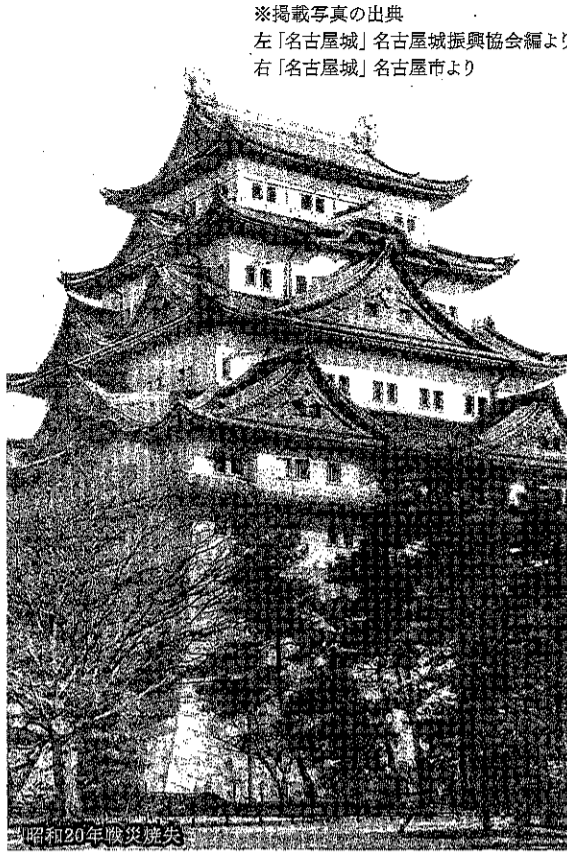
URL <http://www.well-on.co.jp/>







昭和34年



昭和20年戦災焼失

※掲載写真の出典  
左「名古屋城」名古屋城振興協会編より  
右「名古屋城」名古屋市より

# 和良村親睦会

牧野 璃子 (9歳)

## 建築士会西支部親睦会に参加して 8月8日

「うわっ、ぬるぬるしてる。」あゆにくしをさそうとしても、なかなかさせません。もう一どこんどは強めにさしたら、手からすべり落ちてしまいました。でもそのあと、くしをさし方を教えてもらい、なんとか、くねりおどらすように、あゆにさすことが出来ました。

それからあゆをやいてもらいました。でも、それからがものすごく長かったのです。

「早く食べたいなあ。」

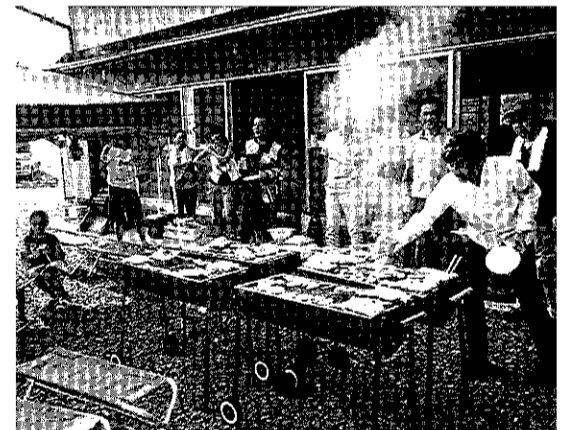
「まだ?」と何でも聞きました。

「じっくりやいた方がおいしいよ。」と言われ、しかたなくまつ事にしました。

それから一時間後、やっとあゆがやけました。

「アチチチチ。」やきたてのあゆを食べてみると、あついで、とってもおいしかったです。

このあゆは、郡上市和良町のあゆで日本一おいしいあゆだそうです。バーベキューもたくさん食べ、楽しい親睦会でした。



## 名古屋城を、木造で復元する場合 建築基準法上の 手続きについて

解説 馬場 富雄

最近、「名古屋城を木造で復元しよう」という話をよく聞く。現在の名古屋城は、元の名古屋城の実測図で造られたので、外観はそっくりであるが、内部の構造は鉄骨鉄筋コンクリート造である。「そんな城はインチキだぎゃー、中まで全部木造の本物の城を後世に残さなアカンぎゃー」という声も聞かれる。

でも、そのためには今の城を取り壊さなければならないが、鉄骨鉄筋コンクリートの解体作業は費用その他諸々でたいへんなことである。

丁度よい機会なので、国宝名古屋城が、70年前の戦

災で炎上してから後、今の名古屋城が再建されるまでの経緯を、次号より順を追って話したいと思います。

今回は、まず2枚の写真を掲載します。左側は昭和34年に、昭和の建築技術者によって完成したものです。右側はなんと今から400年前の建築技術者によって完成したものである。竣工した時、徳川家康は城の最上階から、息子(九男義直)への嫁入り荷物の行列を上機嫌で眺めていたとの記録がある。

さて、「今の城は全く同じによく造ってあるなあ」と言われる方もあれば、「やっぱり本物と模造品とは、ひと味もふた味も違う」と言う人もある。その印象はそれぞれであろうが、故浅野清氏(元法隆寺国宝保存工事事務所長)は、「薬師寺の西塔を再建するため、昭和の宮大工さん達と懸命に努力しましたが、完成してみるとやっぱり昭和に造った西塔でした。つまり、天平時代の約1200年前の塔には敵いませんでした。」とのこと。

※国宝東塔は鎌倉時代に解体修理あり、ついで昭和にもあり。

## 新入会員の抱負

野田 拓美



初めまして新入会員の野田拓美です。1981年生まれ、岐阜県郡上市出身です。私は、東海工業専門学校建築工学科を卒業後、木製家具製作会社を経て、名古屋市内の建築設計事務所に勤務し、官公庁施設・住宅・事務所・店舗などの建築物の設計監理に携わってきました。

現在、名古屋市内西上名古屋で「アトリエヒラク」という名称で一級建築士事務所を営んでいます。事業内容は、建築設計監理及び、内装デザイン。住宅や官公庁施設の設計を主に行っています。事務所の沿革としては、名古屋市及び名古屋産業振興公社の「名古屋創業準備ルーム ドリームナビ」という創業支援事業に参加し、昭和区白金の名古屋ビジネスインキュベータ白金でマーケティングや会計の基礎を起業塾

で学びながら創業準備を行い、2012年に独立。中川区尾頭橋、ナゴヤ球場近くの名古屋ビジネスインキュベータ金山に事務所を開設しました。その後、2014年に西区上名古屋へ事務所を移転した事を機に建築士会へ入会をしました。

趣味は、建築物巡りと料理です。近代建築に興味を持ち建築の世界へ入り、近代・現代建築を訪ねてきました。最近では、ある建築士の方の古民家を再生するプロジェクトに参加させて頂いた事がきっかけで、地域性や伝統的な要素を設計に取り入れたいと考え、古い街並みや古民家などを訪ねて出掛けています。もうひとつの趣味の料理は、旬の野菜や山菜を調理して食べることで季節の移ろいを楽しんでいます。

私は西区へ転居するまでは長らく熱田区に住んでいて名古屋西支部の地域はまだまだ詳しくありませんので、この地域の風土や歴史、おいしいお店などをお教え頂ければ幸いです。みなさま今後ともよろしくお願い致します。

## 編集後記

鶴飼 正樹

2030年には、ほぼすべての新築住宅をZEH(ゼロ・エネルギー住宅)にするという行政のロードマップは思ったよりも速いスピードで進んでいる。5年先の2020年には50%を達成する見込みであり、当支部のある6地域でもZEHの判断基準をクリアするためには、東北並みのUA値0.56を視野に入れておかなければならない。これからは、高性能な住宅を造るだけでなく、その住まい方までも含めての説明が必要な時代になってきた。

愛知県 合格者占有率 **No.1** 愛知県合格者占有率 **65.3%** 愛知県の合格者のおよそ3人に2人は、当学院の現役受講生でした。

愛知総合合格者216名中、141名が当学院受講生

1級・2級建築士  
1級・2級建築施工管理技士  
1級土木施工管理技士  
宅地建物取引主任者  
インテリアコーディネーター

総合資格学院 TEL.052-202-1751

国土交通省大臣認定 建築技術性能証明 SMD杭 スーパーミニドリル

建築技術性能証明 DM(ダブル)工法 SMD杭工法シリーズ

建築技術性能証明 HITSコラム スラリ系機械掘削式 深層掘削工法

造園 外構工事・公共工事 地盤調査・地盤改良 SMD杭製造・販売 石材加工・販売

株式会社 本陣

〒461-0048 名古屋市中区東区矢田南三丁目13番7号  
TEL: 052-722-3000 FAX: 052-722-8311  
E-mail: info@honjin.co URL: http://www.honjin.co